

陸連時報 三

2014
平成26年

9

月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

2014年度主要競技会日程	214
アジア競技大会に臨む(専務理事 尾縣貢)	215
強化関連情報(強化委員会)	216
第1回日中韓3カ国交流陸上競技大会報告(理事・強化委員長 原田康弘)	
ホクレン・ディスタンスチャレンジ2014大会報告(強化副委員長 木内敏夫)	
長野マラソン「レース直前対策講座とランニング相談会」報告	
(普及育成委員会ランニング普及部長 前河洋一)	221
AIMS(国際マラソン・ディスタンスレース協会)第20回総会報告	
(国際委員会国際プロトコール部委員 笹井豊)	222
科学委員会活動報告(日本グランプリシリーズ、日本選手権など)(科学委員長 杉田正明)	224
2014数字で見る陸上競技Vol.3(都道府県別日体協公認指導者数(陸上競技))	226
大会観戦ガイド	227
陸協NEWS	228
事務局からのお知らせ	230

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

2014年度主要競技会日程

主催競技会				後援競技会・協力団体主要競技会				国際競技会		
期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所		
4月	20(日) 98	日本選手権50km競歩	石川	5(土)★	23 金栗記念選抜中・長距離	県民総合(熊本)				
	20(日) 16	長野マラソン	長野	19(土)~20(日)★	GP① 兵庫リレーカーニバル	ユニバー記念(兵庫)				
				19(土)~20(日)★	68 出雲陸上	浜山(島根)				
5月	11(日)	ゴールデンランプリ	国立(東京)	3(祝・土)★	GP④ 静岡国際陸上	エコパ(静岡)	3(土)~4(日)	26	ワールドカップ競歩	太倉(中国)
	3(土)~6(日) 98	日本陸上競技選手権混成	長野市営(長野)	6(祝・火)★	14 水戸招待陸上	Kスタ水戸(茨城)				
	3(土)~6(日) 30	日本ジュニア選手権混成	長野市営(長野)	10(土)★	25 ゴールデンゲームズ in のべおか	延岡(宮崎)				
				11(日)★	24 仙台国際ハーフマラソン	宮城				
				18(日)★	4 ぎふ清流ハーフマラソン	岐阜	2(水)~22(水)	2	ユースオリンピック・アジア地域予選	バンコク(タイ)
6月	6(金)~8(日) 98	日本陸上競技選手権	各地	20(金)~22(日)○	14 日本学生個人	平塚(神奈川)				
			とうほう・みんなのスタジアム(福島)	29(日)★	29 サロマ湖100kmウルトラマラソン	北海道	12(水)~15(日)	16	アジアジュニア陸上競技選手権	台北(チャイニーズ・タイペイ)
7月	30(水)~8(日) 67	全国高校陸上	小瀬(山梨)	12(土)★	27 南部記念陸上	円山(北海道)	6(日)	1	3ヵ国交流陸上	金華(中国)
	8(金)~10(日) 49	全国定通制高校陸上	駒沢(東京)	3(日)★	39 蔵王坊平クロカン	かみのやま(山形)	22(水)~27(日)	15	世界ジュニア陸上競技選手権	ユージン(アメリカ)
	17(日)~20(水) 41	全国中学陸上	丸亀(香川)							
	20(水)~2(木) 49	全国高専陸上	宿毛(高知)							
8月	22(金)~23(土) 30	全国小学生陸上	日産スタジアム(神奈川)							
	25(月)~27(水) 22	日・韓・中ジュニア交流競技会	北上(岩手)							
	30(土)~31(日) 2	全国高校陸上選抜	ヤンマーフィールド長居(大阪)	31(日)★	14 北海道マラソン	北海道				
9月				5(金)~7(日)○	83 日本学生対校	熊谷(埼玉)	13(土)~14(日)	2	コンチネンタルカップ	マラケシュ(モロッコ)
				19(金)~22(日)★	35 全日本マスターズ	北上(岩手)	19(金)~22(日)	18	アジアマスターズ	北上(岩手)
10月	3(金)~5(日) 30	日本ジュニア選手権	瑞穂(愛知)	10(金)~12(日)★	62 全日本実業団	維新百年記念(山口)				
	3(金)~5(日) 8	日本ユース選手権	瑞穂(愛知)	13(祝・月)○	26 出雲全日本大学選抜駅伝	島根				
	18(土)~22(水) 69	国民体育大会	県立総合(長崎)	26(日)★	53 全日本50km競歩高晶	山形				
	3(金)~11(日) 98	日本選手権リレー	日産スタジアム(神奈川)	26(日)★	4 大阪マラソン	大阪	27(土)~10(日) 17	17	アジア競技大会	仁川(韓国)
	3(金)~11(日) 45	ジュニアオリンピック	日産スタジアム(神奈川)	26(日)○	32 全日本大学女子駅伝	宮城				
11月	16(日) 6	横浜国際女子マラソン	神奈川	2(日)○	46 全日本大学駅伝	愛知・三重				
	24(祝・月) 14	国際千葉駅伝	千葉	9(日)★	11 田島記念陸上	維新百年記念(山口)				
12月	7(日) 68	福岡国際マラソン	福岡	9(日)★	30 東日本女子駅伝	福島				
	13(土)~14(日) 17	小学生クロスカントリーリレー	万博記念公園(大阪)	23(日)★	4 神戸マラソン	兵庫				
	14(日) 22	全国中学駅伝	山口	14(日)★	14 長崎陸協競歩	県立総合(長崎)				
	21(日) 65	全国高校駅伝	京都	21(日)★	45 防府読売マラソン	山口				
2015 1月	11(日) 33	都道府県対抗女子駅伝	京都	23(祝・火)○	14 全日本大学女子選抜駅伝	静岡				
	18(日) 20	都道府県対抗男子駅伝	広島	23(祝・火)★	33 山陽女子ロード	岡山				
	25(日) 34	大阪国際女子マラソン	大阪	1(祝・木)★	63 元旦競歩	東京				
2月	7(土)~8(日) 15	日本ジュニア室内大阪	大阪城ホール(大阪)	1(日)★	59 全日本実業団駅伝	群馬				
	8(日) 50	千葉国際クロスカントリー	昭和の森(千葉)	25(日)★	15 大阪ハーフマラソン	大阪				
	15(日) 98	日本選手権男女20km競歩	兵庫	1(日)★	64 別大マラソン	大分				
				8(日)★	69 香川丸亀国際ハーフマラソン	香川				
				15(日)★	55 唐津10マイル	佐賀				
3月	21(土) 29	福岡国際クロスカントリー	海の中道海浜公園(福岡)	15(日)★	49 青梅マラソン	東京				
	22(日) 15	東京マラソン	東京	15(日)★	59 熊日30キロロードレース	熊本				
	1(日) 70	びわ湖毎日マラソン	滋賀	15(日)★	43 実業団ハーフマラソン	山口				
	8(日) 15	名古屋ウィメンズマラソン	愛知	1(日)○	18 日本学生ハーフマラソン	東京	15(日)	15	アジア陸上競技選手権・20km競歩	能美(石川)
	15(日) 39	全日本競歩能美	石川	15(日)○	9 日本学生20km競歩	石川				
				15(日)★	36 まつえレディースハーフ	島根	28(土)	41	世界クロスカントリー選手権	貴陽(中国)
				15(日)○	18 日本学生女子ハーフマラソン	島根				

★=後援競技会、○=協力団体主要競技会 ※2015年1月~3月開催の後援競技会を2014年6月12日付で認定。

アジア競技大会に臨む

専務理事 尾 縣 貢

アジア45の国・地域44億人のスポーツの頂点を競うアジア競技大会が9月に韓国・仁川で開催される。陸上競技は、9月27日から7日間にわたり開催され、日本からは54名の選手(男31名、女23名)が参加する。本大会は、アジアのNO. 1を決定するとともに、選手にとっては2015年の第15回世界陸上競技選手権大会(北京)、2016年の第31回オリンピック競技大会(リオデジャネイロ)に続く道程のマイルストーンでもある。それぞれの選手は、日本の代表として競技をするという使命を持つとともに、各々の中長期強化プランにおける本大会の意義を自覚して臨むことになる。

本大会の選考

今回の選手選考は、これまでの種々の大会の選手選考とは異なる戦略性を持っている。一つは、世界基準の記録を有するアスリートにアドバンテージを与えたという点である。それは、あらかじめ設定した標準記録(A標準:世界ランク12位相当、B標準:世界ランク32位相当)を突破した競技者を一定条件を満たせば優先的に選考するというものであった。もう一点は、2020年東京オリンピックを見据えて、戦略的に強化育成部推薦選手の枠を設定したことである。これは、高校や大学の時代から高いレベルの国際競技会経験を積み重ねることは、将来の国際競技力を高めることにつながるという考えからである。

「世界で戦うことのできる力を持つ選手を選ぶ」「2020東京を見据えた強化プランを実行する」ということが、本大会での成功のみならず、2016年のリオデジャネイロオリンピック、2020年の東京オリンピックにつながるものと信じている。

本チームは、54名中40名が初出場という若いチーム編成となったが、百戦錬磨のベテラン、経験豊富なスタッフを中心に、本番に向けて、勢いがあり結束力の強いチームを作り上げていきたい。

アジアの現状

アジアの勢力分布図は、刻々と変わってきていると言える。1991年のソビエト連邦崩壊後に、カザフスタン、ウズベキスタン、タジキスタンといった中央アジア諸国がアジア競技大会へ参加するようになった。これらの国は、これまで世界的競技水準のアスリートを多く輩出しており、今大会でも、男子ハンマー投、女子の短距離、中距離、跳躍などの種目で金メダル候補がいる。ちなみに広州大会では中央アジア諸国で金7個、銀7個、銅6個のメダルを獲得している。

2002年以降の釜山大会あたりからは、カタール、バーレーンなどの中東諸国にケニア、エチオピア、モロッコなどのアフリカ諸国のアスリートが国籍変更をして出場、中長距離マラソンの上位を独占するようになった。これは世界的な傾向ではあるが、アジアでは顕著であり、前回大会では男子5000m、10000mでメダルを独占している。また、男子短距離種目でもナイジェリアからカタールに国籍変更をしたオグノデが200m、400mの金メダルを獲

得した。彼は、今シーズンも元気であり、日本の短距離陣のライバルになることは必至である。

中国の男子も力をつけてきた。昨年のモスクワ世界選手権の100mで10秒00をマークした張培萌、今季に110mハードルで13秒23の記録をマークした謝文駿、走幅跳で8m47の好記録を打ち立てた李金哲、棒高跳で5m80をマークした薛長鋭をはじめ、新しい力の台頭が目立つ。彼らは、24~27歳の選手であり、2008年の北京オリンピックに影響を受けた世代であろう。オリンピックが、その後の競技者育成に貢献している良い例ではないだろうか。

このように強豪がひしめき合うアジア競技大会は、オリンピックや世界選手権に向けての試金石でもある。「アジアで勝てずして、世界での活躍はない」ということを肝に銘じておく必要がある。

本大会の数値目標

アジア競技大会陸上競技選手団の監督を務める原田康弘理事・強化委員長は、今回の目標を金メダル10個と定めた。2010年の中国・広州大会では、福島千里選手(北海道ハイテクAC)の100m、200m、男子やり投の村上幸史選手(スズキ浜松AC)、女子やり投の海老原有希選手(スズキ浜松AC)の4個。2006年カタール・ドーハ大会では、男子200mの末續慎吾選手(ミズノ)、400mハードルの成迫健児選手(ミズノ)、棒高跳の澤野大地選手(当時 ニシスポーツ、現 富士通)、女子10000mの福土加代子選手(ワコール)、走幅跳の池田久美子選手(スズキ浜松AC)の5個。2002年の韓国・釜山大会は200mの末續慎吾選手(ミズノ)、ハンマー投の室伏広治選手(ミズノ)の2個であり、金メダル10個は、かなり高い目標であると言える。しかしながら、アジアランキングからすると、代表選手たちが持てる力を発揮することができれば、金10個は達成可能な目標である。

種目別に見た場合には、特別な期待を寄せる種目がある。日本のお家芸と言われていた男女のマラソンが21世紀になってからは金メダルから遠ざかっている。また、2000年のシドニーオリンピックからの4回のオリンピックと7回の世界選手権のうち10大会で入賞を果たしている男子4×100mリレーでは、マラソン同様3大会連続して金メダルが取れていない。取れる種目、取るべき種目で確実に金メダルを取るということはチームとしての自信を増し、チームの勢いを高めることにつながる。

最後に

ここに至る道程において、各種の大会開催にご尽力をいただきました主管陸協や協賛各社、実業団連合、学生連合をはじめとする協力団体、本連盟の活動を支援いただいておりますオフィシャルパートナー、オフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤーの各社、ご声援をいただいております陸上ファンの皆様から感謝の意を表します。さらに、本番に向けまして一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

強化関連情報

強化委員会

第1回日中韓3カ国交流陸上競技大会報告

理事・強化委員長 原田 康弘

はじめに

初めて開催された日中韓3カ国交流大会が中国・金華市で7月6日に行われた。この大会の目的はアジアでの陸上競技の中心である中国、韓国、日本がお互いの競技力レベル向上と選手間の交流、また、各連盟同士のコンセンサスをより強固にすることであり、非常に価値のある大会であった。日本からは、男子7種目に14名、女子7種目に15名が参加した。日本陸連からは、横川浩会長、尾縣貢専務理事も出席した。開催された金華市は、上海からバスで4時間半、人口250万人の都市である。当地は、陸上競技大会を初めて開催することによって、中国陸連は大会前日まで会場準備、用器具の整備、審判の確認など入念な準備を行っていた。また、大会に関する三カ国のミーティング、連盟幹部の意見交流会、歓迎食事会なども行われ、この大会をより素晴らしいものにしたという意思をお互いに確認することができた。

生活環境

ホテルは金華市の中心部にあり、近くに商店街やレストランなどが多くあり、生活には困らなかった。食事についても、メインが中華料理であったが果物や野菜なども豊富に準備されており、申し分なかった。気候については、日中が非常に暑く38度ぐらいまで上がり、短時間で雷、豪雨があたりしたが、試合には問題はなかった。

競技会

今大会は、男子7種目、女子7種目と限られた種目での大会だけに、全競技会が2時間で終了するプログラムになっていた。時間帯も涼しい夜19～21時の開催であった。

各国2名でトラック種目は一発勝負であり、フィールドは6回の試技で行われた。交流大会と理解していたが、結局対抗戦として得点をつけることになり、1位10点、2位8点、3位7点、4位6点、5位5点、6位4点で男子総合、女子総合、男女総合で競技会が行われた。日本選手の結果として、最初の種目、女子400mHの吉良愛美選手（アットホーム）が56秒79の自己新で優勝、青木沙弥佳選手（東邦銀行）もシーズンベストとなる57秒51で2位に入った。また、続く、男子400mでも小林直己選手（東海大学）が45秒79

表1 第1回日中韓3カ国交流陸上競技大会
日本代表選手団

No.	役職	氏名	所属
1	監督	原田 康弘	日本陸連 理事・強化委員長
2	コーチ (男子短距離)	小島 茂之	日本陸連 強化委員会 男子短距離部 幹事
3	コーチ (女子短距離)	太田 涼	日本陸連 強化委員会 女子短距離部 幹事
4	コーチ (ハードル)	櫻井 健一	日本陸連 強化委員会 ハードル部 副部長
5	コーチ (跳躍)	青木 和浩	日本陸連 強化委員会 跳躍部 強化
6	コーチ (跳躍)	杉本 誠	日本陸連 強化委員会 跳躍部 委員
7	コーチ (投てき)	高梨 雄太	日本陸連 強化委員会 投擲部 委員
8	トレーナー	村上 博之	日本陸連 医事委員会 トレーナー部 委員
9	トレーナー	田村 佑実保	日本陸連 医事委員会 トレーナー部 部員
10	渉外	大嶋 康弘	日本陸連 事務局 事業部

No.	出場種目	氏名	所属
1	100m	女部田 祐	中央大学
2	100m	塚原 直貴	富士通
3	400m	小林 直己	東海大学
4	400m	廣瀬 英行	富士通
5	110mH	古川裕太郎	小島プレス
6	110mH	佐藤 大志	日立化成
7	棒高跳	萩田 大樹	ミズノ
8	棒高跳	笹瀬 弘樹	スズキ浜松 アスリートクラブ
9	走幅跳	巖村 鴻汰	筑波大学
10	走幅跳	高政 知也	順天堂大学
11	やり投	高力 裕也	鳥取陸協
12	やり投	長谷川 隼平	大体大T. C
13	4×100mリレー	九鬼 巧	早稲田大学
14	4×100mリレー	原 翔太	上武大学

No.	出場種目	氏名	所属
1	200m	伴野 里緒	七十七銀行
2	200m	土橋 智花	岩手大学
3	800m	谷本有紀菜	筑波大学
4	800m	竹内麻里子	中京大学
5	400mH	吉良 愛美	アットホーム
6	400mH	青木沙弥佳	東邦銀行

No.	出場種目	氏名	所属
7	走高跳	渡邊 有希	ミライト・ テクノロジーズ
8	走高跳	井上 七海	OKUWA
9	三段跳	吉田 麻佑	歩アスレチックス
10	三段跳	前田 和香	PEEK
11	やり投	右代 織江	国士舘大学
12	やり投	的場葉瑠香	大体大T. C
13	4×400mリレー	市川 華菜	ミズノ
14	4×400mリレー	千葉 麻美	東邦銀行
15	4×400mリレー	小田垣亜樹	立命館大学

役員
(10名)

男子
(14名)

選手

女子
(15名)

の自己新で優勝し、廣瀬英行選手（富士通）もシーズンベストの46秒54で3位に入り、日本選手団として幸先のいいスタートを切った。女子三段跳でも、前田和香選手（PEEK）が13m17、吉田麻佑選手（歩アスレチックス）も13m10の自己ベストを更新する跳躍をみせたことが、今後の良いきっかけになったに違いない。しかし、中国選手団には実力のある選手が多く、特に男子走幅跳では、Gao選手が8m18、Tang選手が8m06と二人とも8m越えのジャンプをみせた。また、女子三段跳でもDeng選手が13m82の跳躍で、跳躍中国の実力を見せつけられた感がある。さらに、男子棒高跳では、韓国のJin選手が5m65で優勝し、2位に中国のYao選手が5m60、日本期待の荻田大樹選手（ミズノ）が5m40で、この種目の各国のレベルが上がっていることを感じさせた。アジア競技大会での激戦が予想される。また、大会の最後を飾る男女のリレーで、男子4×100mリレー（女部田祐一塚原直貴一丸鬼巧一原翔太）は、日本としても負けることのできない種

目でもあり、大いに期待していたが、2走から3走のバトンのもたつきと3走から4走でバトンミスがあり、大きく遅れてしまった。一方のライバル韓国チームがベストメンバーで臨んで38秒74の韓国記録で優勝した。打倒日本を大きな目標としていることを伺わせるレースであった。女子4×400mリレー（小田垣亜樹一千葉麻美一市川華菜一吉良愛美）は、個々の実力で中国が上回っているものの、中国とマッチレースができれば好記録が期待できると考えていたが、中国のパフォーマンスは期待はずれで、1走から日本独走のレース展開になってしまった。しかし、3分32秒46の世界リレー参加標準記録を突破する好記録であった。女子マイルリレーの強化で1週間前に香港に派遣してレースをさせたことが、この記録につながったと確信しているし、アジア競技大会でも大いに期待したい。

国外の試合であったにもかかわらず、多くの選手がパーソナルベストやシーズンベストを出したことは、自信につながるに違いない。男子総合2位、女子総合

表2 第1回日中韓3カ国陸上競技交流大会 リザルト

■は当該ラウンドの設定がないことを示す

男子	種目	氏名	所属	自己ベスト	日付	予選	日付	準決勝	日付	決勝
1	100m	女部田 祐	中央大学	10.30					7/6	10.40 +1.0m/s 銅メダル
2	100m	塚原 直貴	富士通	10.09					7/6	10.43 +1.0m/s 4位
3	400m	廣瀬 英行	富士通	45.84					7/6	46.54 銅メダル
4	400m	小林 直己	東海大学	46.20					7/6	45.79 金メダル
5	110mH	佐藤 大志	日立化成	13.61					7/6	14.28 +2.5m/s 6位
6	110mH	古川裕太郎	小島プレス	13.65					7/6	13.70 +2.5m/s 銅メダル
7	棒高跳	荻田 大樹	ミズノ	5m70					7/6	5m40 銅メダル
8	棒高跳	笹瀬 弘樹	スズキ浜松 アスリートクラブ	5m50					7/6	5m20 6位
9	走幅跳	嶺村 鴻汰	筑波大学	7m94					7/6	7m90 +1.5 銅メダル
10	走幅跳	高政 知也	順天堂大学	7m79					7/6	7m60 +0.2 5位
11	やり投	高力 裕也	鳥取陸協	77m84					7/6	74m11 銀メダル
12	やり投	長谷川 隼平	大体大T. C	76m75					7/6	73m99 銅メダル
	4×100m リレー	決勝期日	出場オーダー				順位	銅メダル	記録	40.72
		7月6日	女部田一塚原一丸鬼一原							
女子	種目	氏名	所属	自己ベスト	日付	予選	日付	準決勝	日付	決勝
1	200m	伴野 里緒	七十七銀行	23.92					7/6	24.19 +1.2m/s 銅メダル
2	200m	土橋 智花	岩手大学	24.12					7/6	24.21 +1.2m/s 5位
3	800m	谷本有紀菜	筑波大学	2:05.39					7/6	2:08.71 5位
4	800m	竹内麻里子	中京大学	2:06.21					7/6	2:08.63 4位
5	400mH	吉良 愛美	アットホーム	56.63					7/6	56.79 金メダル
6	400mH	青木沙弥佳	東邦銀行	55.94					7/6	57.51 銀メダル
7	走高跳	渡邊 有希	ミライト・テクノロジーズ	1m82					7/6	1m75 銅メダル
8	走高跳	井上 七海	OKUWA	1m76					7/6	1m70 6位
9	三段跳	吉田 麻佑	歩アスレチックス	13m04					7/6	13m10 +1.8 5位
10	三段跳	前田 和香	PEEK	13m10					7/6	13m17 +1.4 4位
11	やり投	右代 織江	国士舘大学	54m49					7/6	53m02 銅メダル
12	やり投	的場葉瑠香	大体大T. C	58m93					7/6	50m11 6位
	4×400m リレー	決勝期日	出場オーダー				順位	金メダル	記録	3:32.46
		7月6日	小田垣一千葉一市川一吉良							

2位、男女総合が2位という成績であったが、内容のある素晴らしい大会であった。来年は、日本開催であり、十分な準備をして中国、韓国を迎えたい。

最後に

第1回目の大会ではあったが、短時間で、集中できた大会であった。会場の30000人収容のスタジアムは、動員された観客もあり、雰囲気的には大変良かったように感じた。金華市で初めて行われる国際大会でもあり、観客も大いに沸いていた。日中韓の陸上競技の発

展及び競技力向上、コーチ・選手間の交流などを通して、三カ国が今後のアジアでの親睦をより深めた大会でもあったように感じている。

また、今回のコーチングスタッフは若手が多く、積極的に活動していただいた。今後もコーチ育成のためにも、このような大会を経験の場として活用することも必要であると感じた。最後に、派遣された役員の方々にこの場を借りて、深くお礼を申し上げる。



 **スポーツ振興基金助成事業**
独立行政法人日本スポーツ振興センター

ホクレン・ディスタンスチャレンジ2014大会報告

強化副委員長 木内敏夫

今年で12回目を迎えるホクレン・ディスタンスチャレンジは、下記4会場で開催され、関係者のご協力により本年も無事終了した。

大会主旨、大会の概要、結果及び今後の課題について以下のとおり報告する。

1. 主旨

(1) 近年、個人や各団体が欧米の大会を転戦するようになり、海外の大会で多くの日本人選手の参加が散見されるようになった。しかし、欧米の大会では大会持ちタイムがないとウェイティングはまだしも、全く出場できない状態も多く見受けられた。

そこで海外主要大会に出場できる選手は、欧米転

戦の直前調整に利用し、そのレベルに至っていない選手にとっては、ヨーロッパと似た気候の北海道で、ペースメーカーを準備することにより、記録挑戦を目指した。

(2) 大会運営も、選手優先の記録にチャレンジできる大会を心掛けた。

(3) 毎年夏季に多くのチームが合宿などで協力を得ている、北海道の各地域を会場とした。

2. 会場・期日・種目 (表3)

3. 参加状況 (大会出場者数) 及び気象状況 (表4)

4. 自己ベスト、シーズンベスト達成数 (表5)

大会の条件によって、ばらつきがあるものの、自己

ベスト達成率は男子で約17%、女子で約20%であった。特に網走大会が気温も低く好条件だったため達成率が

高かった。

表3 会場・期日・種目

会場	場所	期日	種目	
			男子	女子
第1戦・深川大会	深川市 陸上競技場	6月25日(水)	1500m、 5000m、 10000m	1500m、 3000m、 10000m
第2戦・士別大会	士別市 陸上競技場	6月28日(土)	1500m、 5000m	1500m、 3000m、 5000m
第3戦・北見大会	北見市 東陵公園 陸上競技場	7月2日(水)	800m、 1500m、 5000m	800m、 1500m、 3000m、 5000m
第4戦・網走大会	網走市営 陸上競技場	7月6日(日)	800m、 1500m、 5000m、 10000m	800m、 1500m、 5000m、 10000m

表4 参加状況(大会出場者数)及び気象状況

	出場者数(人)			気象状況			
	男子	女子	合計	天候	気温(°C)	湿度(%)	風速(m/s)
深川	234	74	308	晴	26.0→20.5	60→60	1.5→0.5
士別	122	82	204	晴	26.0→23.5	62→71	2.3→1.3
北見	143	184	327	曇	23.5→20.8	64→73	1.0→1.5
網走	269	174	443	曇	14.0→10.7	73→87	1.6→0.8
合計	768	514	1282				

※気象状況は競技開始時→競技終了時で表現
参加者数は過去最高の1282人となった。

5. 大会結果特記事項

例年同様に、温度や風を考慮して記録を狙う条件に適した夕方または、ナイターで実施した。今年も多くの実業団、学生選手や、韓国の選手もそれぞれが設定した目標達成を目指してレースに参加した。

また9月に開催される第17回アジア競技大会(仁川)の代表選手も数名参加するなど、本大会に向けて本格的な強化期間に入る前のチェックとしての意味も兼ねて本シリーズに出場していた。

・第1戦深川大会

男子10000mA組では宮脇千博選手(トヨタ自動車)が日本人トップの28分20秒77でゴールした。中谷圭佑選手(駒澤大学)は28分30秒52で自己記録を更新。その後行われた世界ジュニア選手権で7位に入賞した。女子3000mでは清水美穂選手(ホ

表5 自己ベスト・シーズンベスト達成数

	自己ベスト・シーズンベスト				自己ベスト			
	達成数		達成率		達成数		達成率	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
深川	24	20	10.26%	27.03%	17	15	7.26%	20.27%
士別	6	8	4.92%	9.76%	5	7	4.1%	8.54%
北見	40	44	28.57%	23.91%	26	36	18.57%	19.57%
網走	94	53	36.29%	29.78%	80	42	30.89%	23.6%
合計	164	125	21.72%	24.13%	128	100	16.95%	19.31%



第2戦 士別大会

クレン)が9分15秒02で自己記録を更新した。

・第2戦 別大会

アジア競技大会代表の大迫傑選手(日清食品グループ)が5000mA組に出場し、日本人トップの13分42秒54で走り、その後の欧州転戦に向けても順調なようであった。深川大会女子10000mを制した山崎里菜選手(パナソニック)は、3000mに出場しトップの9分21秒18でゴールした。

・第3戦 北見大会

アジア競技大会代表の萩原歩美選手(ユニクロ)が女子5000mに出場、15分33秒71の自己ベストを達成し、アジア大会に向けて順調なところを示した。

また、同じくアジア競技大会代表の尾西美咲選手、松崎璃子選手(共に積水化学)も、それぞれ3000mの自己記録を更新した。5月に800mの日本記録を樹立した川元奨選手(日本大学)は1500m

のペースメーカーとして出場した。

・第4戦 網走大会

この時期には肌寒い天候であったが、高島由香選手(デンソー)が31分55秒81と自己記録を更新したり、10000m、5000mでも好記録が見られた。

また、アジア競技大会のマラソン代表の早川英里選手(TOTO)も10000mで自己記録を更新するなど、アジア競技大会に向けての調整も順調に進んでいる様子が見られた。

6. 日韓交流事業

JOCの助成事業である日韓競技力向上スポーツ交流が今年も、ホクレン・ディスタンスチャレンジに合わせて開催され、選手・役員合計24名が来日した。この事業は、毎年ホクレン・ディスタンスチャレンジに合わせて韓国チームを迎え入れ、12月には韓国でジュニア選手を中心とした合宿を実施している。この事業も本年で12回目を迎えて中長距離種目の強化と交流を深めている。

また、本事業の選手団とは別に、北見大会、網走大会には多くの韓国選手が出場し、自己記録を多く更新していた。日本の強化だけでなく、韓国にとっても重要な競技会の一つとなっている大会と言える。

7. 今後に向けて

今年は参加者が1282人と過去最高の大会となり、実業団・学生の長距離選手にとっても、この時期のホクレン・ディスタンスチャレンジは、国内で記録を狙える競技会として認知されてきた。

それぞれのチームの年間計画の中で本シリーズを秋シーズンへのステップアップのための大会として位置づけ、その重要性が年々上がっていることが感じられる。

また開催自治体にとっても、合宿の誘致などもあり、本シリーズの開催が年々重要視されて来ている。北海道の地元中高校生のレベルアップにも貢献している。

第1回大会よりご協賛を頂いているホクレン、参加賞の提供を頂いているデサントの各社に厚く御礼申し上げますと共に、これからも継続して本シリーズを開催していけるように関係各位のご協力・ご支援をお願いしたい。



写真2 第3戦 北見大会

日本陸上競技連盟主催・市民ランナーのためのランニングクリニック 長野マラソン「レース直前対策講座とランニング相談会」報告

普及育成委員会ランニング普及部長 前河 洋一

参加者からも例年、高い評価をいただいている日本陸連主催のランニングクリニックは、これまでの流れを引き継いで、第16回長野オリンピック記念長野マラソンのレース前日の4月19日（土）に受け付け、会場のビッグハットで開催した。当日に受付をして参加することも可能であるが、事前の参加申込が270名に達していた。

担当する講師は、日本陸連普及育成委員会の委員を中心にお手伝いいただいた。

内容は、元オリンピックマラソン代表の浅井えり子氏（ソウルオリンピック女子マラソン代表）と川嶋伸次氏（シドニーオリンピック男子マラソン代表）によるトークショー形式のレース対策とアドバイス（45分間）、テーマ別のランニング相談会（60分）の二本立てである。それぞれを午前と午後に分けて2回ずつ実施した。出入りが自由なため、正確な参加人数は把握できなかったが、トークショーについては準備していた座席では足りず、半数近くが立ち見の状態でも熱心に聞き入っていた。

トークショーではコースの説明や攻略法、レース前日の過ごし方や食事の摂り方、レース当日の行動予定とウェアの選択やペース配分について、選手・指導者の両方の立場からわかりやすく、ユーモアを交えてコメントしていただいた。

相談会のテーマと講師は次の通りで、それぞれ30人ずつの定員に対して、それを上回る参加人数のテーマもあった。最初に各講師がテーマに関する基本理論や実践について解説を行った後、質疑応答の時間を設

けた。60分の中で2つのテーマに参加できるように、30分で参加者を入れ替えて同じ内容を2回実施した（それを午前と午後なので、実質4回実施）。

- ①マラソンの調整法とレース対策（大島めぐみ）
- ②ランニングフォームのアドバイス（前河洋一）
- ③中級レベルのトレーニング（市河麻由美）
- ④上級レベルのトレーニング（渋谷俊浩）
- ⑤健康管理と内科的トラブルの対処法（岡野裕）
- ⑥ランニング障害の予防と対処法（小嵐正治）
- ⑦ランナーのための食事と栄養（大畑好美）

長野マラソンは制限時間が「5時間」で、他の大会よりは厳しい条件であるために参加者の意識もそれなりに高く、制限時間内での完走を目指すランナーよりも記録にこだわりを持つランナーが多いようである。以前は「初心者のトレーニングアドバイス」なども相談会テーマとして掲げていたが、この大会に参加するランナーの大半は、中級レベルかそれ以上を目指す層であることが判明した。

昨年は降雪と寒さに悩まされたが、今回は天候にも恵まれ、レースコンディションとしても良好であった。レース後には「トークショーのアドバイスが大変役立った」、「相談会のアドバイスのおかげで安心して走れた、上手く走れた」と言ったコメントが寄せられ、参加ランナーにとっては非常に有意義なランニングクリニックであったことが伺える。

事前準備や当日の受付など、あらゆる面でご協力いただきました長野県陸上競技協会の先生方と関係各位に改めて感謝申し上げます。



AIMS(国際マラソン・ディスタンス レース協会)第20回総会報告

国際委員会 国際プロトコール部委員 笹井 豊

総会期日：2014年5月29～31日

場 所：ダーバン市（南アフリカ共和国）

目 的：

1. 澤木啓祐理事退任に伴う、理事選挙への立候補
2. 情報収集

はじめに

帖佐寛章AIMS名誉会長、澤木啓祐AIMS前理事の多大なるご協力を得て、現地での事前の選挙活動が実を結び、この度選挙にて尾懸貢日本陸連専務がAIMSの理事に就任致しましたことを、まずご報告申し上げます。任期は4年で担当はマーケティングです。

現在、日本では日本陸連主催大会をはじめ19レースが加盟しており、また、世界約100の国と地域に約370レースが加盟しているAIMSではあるが、その中でも加盟レースの数は、日本は世界で一番多い。この機会に少し、AIMS誕生の歴史と日本の果たしてきた役割を中心に説明させて頂き、より皆様のご理解とご支援を賜りたいと考えます。

AIMS誕生の時代背景と日本陸連の果たした重要な役割

第一次ランニングブームがアメリカからヨーロッパに広がった1980年代の初頭、今日のようにアフリカに優秀な選手が多数いて、AR（競技者代理人）が各大会と交渉して選手をバランスよく参加させていた時代とは違い、当時は特に限られた数の著名選手の招聘問題を中心に、共存共栄を図るべく、レース・ディレクターがニューヨークやホノルルの大会の際に集まり、今後の方向性を探るべく議論を重ねていた。

そのような歴史的な経緯から、今から32年前の1982年にロンドンで28のレースが参加し、AIMSが誕生した。その発足メンバーを見ると、ボストン、ロンドン、ニューヨーク、ベルリンはもとより、福岡国際マラソン、東京国際マラソン、東京国際女子マラソン、大阪国際女子マラソンの4大会が参加していた。

当時、日本が世界のマラソン界を大会運営においても、日本選手の世界各地での活躍ぶりでも世界をある意味でリードしていたことを物語るもので、当時の青木半治日本陸連会長の強い希望と日本の関係者の意欲と熱意で、1983年に第一回のAIMS総会を招聘し、東京国際マラソン時に開催した。会場となった京王プラザホテルでは、世界の主要大会では採用されはじめたエキスポの概念を応用し、総会スポンサーとなっていた各企業がブースを設置して好評を博した。

AIMSの会長職の変遷と帖佐会長の果たした役割

AIMS会長は、初代、ボストンマラソンのウィル・クロニー氏、2代目がロンドンマラソンのクリス・ブレッシャー氏、そして3代目がグラスゴーマラソンのボブ・ダグリッシュ氏が務めたが、残念なことに1990年に急逝され、第一副会長の帖佐寛章日本陸連専務理事（当時）が福岡のレース・ディレクターとして会長代理を務め、1993年の総会で会長に選出された。

AIMS設立当初は、IAAF（国際陸上競技連盟）との関係は必ずしも良好だとは言えなかった。というのは多くの欧米のレース・ディレクターはそれぞれの都市マラソンを育てたという自負があり、ランニングブームを背景としてその発言力は増し、その分野では後発のIAAFとの間で、多少の摩擦が生じていた部分もあった。

帖佐氏は、1984からIAAFクロスカントリー・ロード委員会のメンバーでもあり、強化の現場の経験も豊富であった。また国際的なランニングイベントの主権者としても仕切った豊富な経験の中で、幅広い見識を持たれていたのが、AIMSとIAAFの協力関係は進み、計測方法の統一化、計測セミナーの実施、計測員の格付けと評価等や機関誌の共同編集等で協力関係構築に多くの実績を残し、また自ら日本のスポンサー数社も獲得し、財政基盤の確立に努め、2010年までの17年間の長きにわたり会長を務め、スペインのバレンシアマラソンの会長であるボラオ氏に会長を引き継いだ。

この間1999年の大晦日には日本のテレビ局と手を組んで、ミレニアムを迎える記念すべき時に、シドニー、バンコク、ケープタウン、パリ、リオデジャネイロ、ニューヨーク、ホノルルそしてお台場で5kmのファンランイベントを開催し、そこで行われたチャリティ活動で集めた浄財と日本のテレビ局が主体となって集めた電話による募金をユニセフに寄付した。その後のAIMSの社会貢献活動の先鞭をつけた地球規模の大きなイベントを実施した。

初めてのアフリカでの総会と

ランニングムーブメントの拡がり

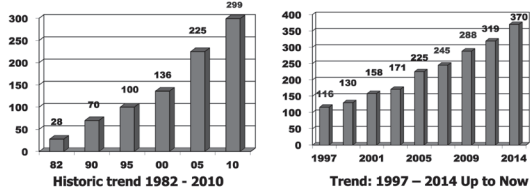
今回の南アフリカのダーバンで行われた総会は20回目となり、アフリカで初めて開催された歴史的な総会である。総会はAIMSのレース主催者が引き受けることになるので、今回は世界的なウルトラマラソンで有名なコムラッズマラソンが担当した。ダーバンはサッカーやラグビーのワールドカップ等の大規模な国

際スポーツ大会の開催実績もあり、会議場の設営、ホテルやトランスポーション等、実に正確で人情味も溢れ、予想をはるかに上回るものであった。

凡そ1年半毎に行われる総会であるが第1回の東京から今回のダーバンまでの総会開催地は立候補により総会で決めるが、この20回の開催地の大陸別分布を整理すると、ヨーロッパが9回、アジアが6回、北米が2回、南米、オセアニア、アフリカが各1回という内容で、加盟メンバー数の約44%を占めるヨーロッパがエリアとしてはランニングムーブメントをリードしてきたとも言えるが、その世界的な普及発展を象徴するように今回の開催地候補はプエルトリコと南米、エクアドルで争われ、エクアドルに決定した。

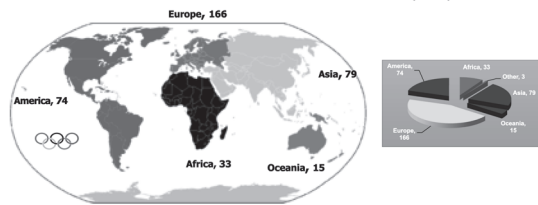
今回遠隔地であるがため、出席者が少ないのではと危惧されたが、遠く南米からも多くの出席者があり、加盟370レースの中で、90レースからの凡そ200名の参加者が出席し、またセミナー形式の“危機管理”だとか、“選手のマネージメント”等の興味あるテーマにはメンバー以外の南アの近隣国からもレース関係者に出席を呼びかけ、活発な意見交換を行った。

AIMSのメンバーシップの拡大の時系列変化



AIMSのメンバーシップの地域分布

AIMS Worldwide Distribution
370 AIMS Members within 102 countries / territories (YTD)



※20回AIMS総会パコ・ボラオ会長発表資料から

日本のAIMS会員 (19)

福岡国際マラソン／東京マラソン／びわ湖毎日マラソン
／名古屋ウィメンズマラソン／大阪国際女子マラソン／
横浜国際女子マラソン／別府大分毎日マラソン／北海道マラソン／神戸マラソン／京都マラソン／奈良マラソン
／長野オリンピック記念長野マラソン／富士山マラソン
（旧河口湖マラソン）／大阪マラソン／北九州マラソン
／サロマ湖100kmウルトラマラソン／ぎふ清流ハーフマラソン
／香川丸亀国際ハーフマラソン／青梅マラソン

AIMSの理事構成

理事の選挙時期をずらす半減上陸の選挙システムを採用。(伝統の継承)

President : Paco Borao

(会長 スペイン バレンシアマラソン)

Vice President : Dave Cundy

(副会長 オーストラリア 万里の頂上マラソン)

Vice President : Martha Morales

(副会長 メキシコ タガマンガマラソン)

Secretary : Hugh Jones (事務局長)

Treasurer : Al Boka

(会計 アメリカ ラスベガスマラソン)

Board Member : Gary BE Boshoff

(理事 南ア〈元〉 コムラッツマラソン)

Board Member : Bruno Boukobza

(理事 フランス ニースマラソン)

Board Member : Andrea Eby

(理事 カナダ バンクーバーマラソン：新任)

Board Member : Fernando Jamarne

(理事 チリ サンチャゴマラソン)

Board Member : Mark Milde

(理事 ドイツ ベルリンマラソン)

Board Member : Mitsugi Ogata

(理事 日本 福岡国際マラソン：新任)

おわりに

日本陸連の任務は、帖佐AIMS名誉会長、澤木AIMS前理事が築かれた世界の中でのランニングムーブメントにおける日本陸連への信用を損なうことなく、この世界的に急速に広がっているランニングブームの中で、世界に通用する日本のエリート選手を強化育成すると同時に、増え続ける市民ランナーを日本陸連としてどのように組織化して日本陸連の支援者になっていただくことではないだろうか。

そのために日本においてAIMSの加盟レースを更に増やし、日本からのスポンサーも増やして世界のランニングムーブメントに具体的に貢献してゆくことが求められている。今後ともAIMSとその活動にご注目いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



後列： Gary Boshoff, Fernando Jamarne, Bruno Boukobza, Andrea Eby, Mitsugi Ogata, Mark Milde. 前列： Al Boka, Martha Morales, Paco Borao, Dave Cundy, Hugh Jones
photo copyright: Francis Kay of AIMS' sponsor: marathon-photos.com

科学委員会活動報告 (日本グランプリシリーズ、日本選手権など)

科学委員長 杉田 正明

1. はじめに

科学委員会では、昨年度より強化委員会の各部に科学スタッフが配置され、これまで以上に密接に連携した活動を精力的に行っている。すなわち、強化現場に密着し、個別的、実践的なデータ収集と即時的フィードバックに重点を置いた活動の展開である。本年度は、競技会におけるパフォーマンスデータの収集（競技会におけるデータの収集、分析、フィードバック）、体力評価およびトレーニングコンサルタント、コンディショニングサポート、ジュニア選手の発掘・育成に役立つ情報提供、活動成果の公表（報告レポートにまとめ、陸上競技研究紀要へ掲載、研修会の開催）等に取り組んでいる。特に、リオデジャネイロ、東京オリンピック、ポスト東京を見据えた新たな活動として、マラソン、競歩における暑熱対策への本格的な取り組み、また、ジュニア選手の種目転向、発掘に関して、強化委員会、普及育成委員会と連携し、これまでに収集されてきた体力データやトップ選手の履歴調査からトランスファーマップ（種目転向の道しるべ）を完成させるべく活動中である。

競技会での撮影およびデータ収集については、競技会主催者および主管陸協から多大なご理解とご協力を得ることができたため、大きな問題もなく実施できています。ここに記して、関係各位に深く感謝申し上げます。

2. 種目別担当者

科学委員会では、各種目担当責任者を配置し、強化委員会と連携し、競技会データのフィードバック、強化合宿におけるサポート活動、味の素NTCやJISSを活用した研修合宿での情報提供やデータフィードバックなどを行っている。

短距離：広川龍太郎（北海道東海大学）、ハードル：森丘保典（日本体育協会）、中・長距離：榎本靖士（筑波大学）、マラソン：杉田正明（三重大学）、競歩：三浦康二（成蹊大学）、跳躍：小山宏之（京都教育大学）、投てき：田内健二（中京大学）、混成：松林武生（国立スポーツ科学センター）、ジュニア：持田尚（横浜市体育協会）

3. 競技会におけるパフォーマンスデータの収集

(7月28日現在)

現在まで、競技会におけるデータの収集、分析およびフィードバックを下記のように実施した。

- 1) 出雲陸上競技大会（出雲）
4月19、20日 短距離
- 2) 兵庫リレーカーニバル（神戸）
4月19、20日 投擲
- 3) 日本選抜陸上和歌山（和歌山）
4月26、27日 短距離、跳躍、混成競技
- 4) 織田記念陸上（広島）
4月29日 短距離、中距離、跳躍、投擲
- 5) 静岡国際（袋井）
5月3日 短距離、ハードル、中距離、跳躍、投擲
- 6) セイコーゴールデンングランプリ東京
5月11日 短距離、ハードル、中距離、跳躍、投擲
- 7) 日本選手権混成（長野）
5月31日、6月1日 混成競技
- 8) 日本選手権（福島）
6月6～8日 全種目
- 9) 世界ジュニア選手権（アメリカ）
7月22～27日 全種目

競技会終了後、各種目担当の強化委員と連携して、選手へのフィードバックを行っている。図1は、織田

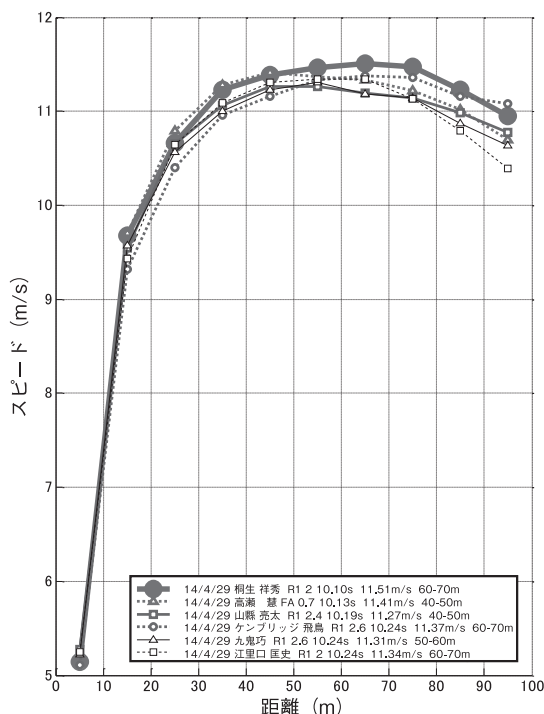


図1 織田記念男子100mレース分析スピード曲線 (記録でみた上位6名)

記念陸上男子100mレースでの記録でみた上位6名のスピード曲線である。桐生祥秀選手（東洋大学）の10秒10の走りは、最高スピードが60～70m区間で11.51m/秒を記録しており、他の選手よりも高い値を示している。昨年の同大会での桐生選手は、追い風参考記録ながら10秒03で走り、その際の最高スピードは、11.65m/秒で、40～50m区間での出現であった。出現速度区間が今年はよりゴール側で出現しており、コンディションによるものか、あるいは走り方を試行錯誤している可能性が推察される。

こうした競技会におけるパフォーマンス分析は、1991年の東京世界選手権の年から行われてきており、現在で約20年余りが経過した。競技成績が高い(良い)選手は、どのような特徴を有するかに焦点を当て、丁寧な研究活動を重ねてくることができたおかげで、ある一定の成果や実績を得ることができている。一方、競技中の動作やスピード等のジュニアからシニアへの縦断的な変化についての科学的知見は、未だ十分とはいえない状況にある。今後、ジュニアからシニアまで一貫した体力データの更なる蓄積とともに両面から検討する必要がある。ジュニアからシニアトップ選手になるための必要条件やそれらの望ましい発達モデルを究明することは、2020及びポスト2020を目指した育成・

強化への体系的な科学的知見の提供に寄与することとなり、極めて意義深い取り組みといえるであろう。こうした観点で示したのが図2の山縣亮太選手（慶應義塾大学）の100m走における高校生時からの追跡データである。スピードや4ステップ毎のピッチ及びストライドの変遷を観察することによって、どのようにタイム短縮がなされてきたのかを考察する一助になると思われる。さらに、国内外のシニア選手のデータはかなり蓄積されてきてはいるが、ジュニア選手に限れば、国内選手のデータはインターハイを中心に集積されているものの同年代の海外の強豪選手（その後世界トップレベルになった選手）のデータは未収集で未分析の状態である。育成から強化への望ましい発達モデル提示のためにも世界と日本のジュニア選手の比較検討は不可欠であると考えられる。そこで今年の世界ジュニア選手権（ユージン）へ榎本靖士副委員長ら6名を派遣し、パフォーマンス分析活動を行うこととした。長期育成法や種目転向に資する基礎的資料が得られることを期待したい。今後、リオデジャネイロ、東京オリンピックへ向けた戦略的かつ包括的な選手強化支援活動をより一層、充実、発展させていく予定である。

本委員会の活動成果の一部は報告レポートにまとめ、陸上競技研究紀要に毎年掲載している。さらに、バイオメカニクス研究活動報告書（インターハイ等）についても日本陸連のホームページに陸上競技研究紀要とともにアップされている。ぜひ、<http://www.jaaf.or.jp/t-f/index.html>を参照いただければ幸いです。

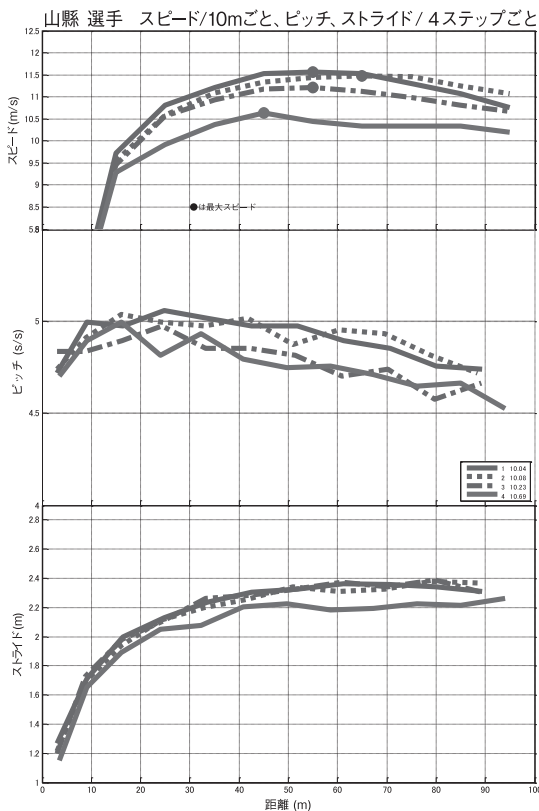


図2 山縣選手の追跡データ

日付	風速 m/s	記録 秒	最大スピード m/s	総ステップ ステップ	最大スピード時の ーピッチ ステップ/秒	ーストライド m
1	2.7	10.04	11.57	47.6	4.97	2.33
2	2.0	10.08	11.48	47.9	4.93	2.33
3	1.8	10.23	11.21	47.6	4.81	2.33
4	-2.1	10.69	10.63	49.6	4.80	2.22

2014数字で見る陸上競技Vol.3 都道府県別日体協公認指導者数(陸上競技)

事務局

2014数字で見る陸上競技、3回目の今回は陸上競技における日本体育協会公認スポーツ指導者資格有資格者数(都道府県別、資格別)をご紹介します。なお、今回ご紹介する数字は、2014年7月25日付け登録者数です。

NO.	都道府県名	JAAF公認ジュニアコーチ		JAAF公認コーチ		合計
		日体協公認指導員	日体協公認上級指導員	日体協公認コーチ	日体協公認上級コーチ	
1	北海道	23	0	12	12	47
2	青森県	21	4	9	5	39
3	岩手県	5	2	18	7	32
4	宮城県	26	0	6	2	34
5	秋田県	13	0	9	0	22
6	山形県	24	0	14	6	44
7	福島県	125	0	22	3	150
8	茨城県	22	0	18	10	50
9	栃木県	9	0	10	5	24
10	群馬県	58	1	24	4	87
11	埼玉県	51	2	35	15	103
12	千葉県	29	3	37	13	82
13	東京都	144	4	51	36	235
14	神奈川県	32	0	34	10	76
15	山梨県	19	11	11	4	45
16	新潟県	27	11	21	6	65
17	富山県	58	0	7	1	66
18	石川県	25	2	4	3	34
19	福井県	40	0	17	2	59
20	長野県	30	3	26	7	66
21	静岡県	48	8	18	7	81
22	愛知県	35	0	26	6	67
23	岐阜県	15	4	15	5	39
24	三重県	13	2	22	4	41
25	滋賀県	14	0	16	5	35
26	京都府	28	0	31	5	64
27	大阪府	14	2	11	6	33
28	兵庫県	9	2	14	5	30
29	奈良県	15	0	13	3	31
30	和歌山県	71	0	10	6	87
31	鳥取県	28	0	7	4	39
32	島根県	6	0	5	3	14
33	岡山県	7	0	16	7	30
34	広島県	69	2	15	8	94
35	山口県	28	5	11	6	50
36	徳島県	13	1	4	1	19
37	香川県	3	0	16	4	23
38	愛媛県	10	0	18	6	34
39	高知県	24	1	15	1	41
40	福岡県	34	3	13	11	61
41	佐賀県	9	1	5	2	17
42	長崎県	13	11	14	2	40
43	熊本県	26	3	10	7	46
44	大分県	34	22	13	3	72
45	宮崎県	31	3	14	1	49
46	鹿児島県	37	0	14	2	53
47	沖縄県	20	5	4	4	33
合計		1,435	118	755	275	2,583

大会観戦ガイド

若きアスリートの熱き戦いが続きます！

全国小学生陸上は日産スタジアム、日・韓・中ジュニア交流競技会は北上陸上競技場、全国高校陸上選抜はヤンマーフィールド長居が激戦の地！

是非、会場で応援下さい！

“日清食品カップ” 第30回全国小学生陸上競技交流大会

- ▼期日：8月23日（土）開会式 08：30～
競技会 09：30～18：00
- ▼会場：神奈川県・日産スタジアム
神奈川県横浜市港北区小机町3300
- ▼アクセス：JR新横浜駅から徒歩14分、地下鉄新横浜駅から徒歩12分、JR小机駅から徒歩7分。
- ▼種目：〈男子〉7種目／6年生100m、5年生100m、80mハードル、走幅跳、走高跳、ソフトボール投、4×100mリレー 〈女子〉7種目／6年生100m、5年生100m、80mハードル、走幅跳、走高跳、ソフトボール投、4×100mリレー
- ▼参加者：小学生5・6年生に該当する年齢で、各都道府県での選考会を経て選ばれた代表選手22名と指導者4名とする。
- ▼放映予定
8月30日（土）15：00～16：30 NHK Eテレ
- ▼問い合わせ先：日本陸上競技連盟
TEL03-5321-6580 FAX03-5321-6591
大会ホームページ<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1202/>



昨年の全国小学生陸上

第22回日・韓・中ジュニア交流競技会 岩手大会

- ▼期日：8月25日（月）、27日（水）
- ▼会場：岩手県・北上総合運動公園北上陸上競技場
岩手県北上市相去町高前壇27-36
- ▼アクセス：東北自動車道「北上金ヶ崎IC」より車で約5分、北上駅よりバスで約20分（北上翔南高校・

日香下線、片道290円）、北上駅よりタクシーで約10分。

- ▼種目：〈男子〉12種目／100m、200m、400m、1500m、110mハードル、4×100mリレー、走高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、やり投 〈女子〉12種目／100m、200m、400m、800m、1500m、100mハードル、4×100mリレー、走高跳、走幅跳、砲丸投、円盤投、やり投
- ▼出場選手：男子11名、女子11名、役員3名の日本代表選手団。
- ▼問い合わせ先：日本陸上競技連盟
TEL03-5321-6580 FAX03-5321-6591
大会ホームページ<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1203/>



昨年の日・韓・中ジュニア交流

第2回全国高等学校陸上競技選抜大会

- ▼期日：8月30日（土）～8月31日（日）
- ▼会場：大阪府・ヤンマーフィールド長居
大阪府大阪市東住吉区长居公園1-1
- ▼アクセス：地下鉄御堂筋線「長居駅」、JR阪和線「長居駅」または「鶴ヶ丘駅」下車。
- ▼種目：〈男子〉4種目／300m、10000m、2000m障害物、八種競技 〈女子〉7種目／300m、5000m、2000m障害物、棒高跳、三段跳、ハンマー投、七種競技
- ▼問い合わせ先：日本陸上競技連盟
TEL03-5321-6580 FAX03-5321-6591
大会ホームページ<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1204/>



昨年の全国高校陸上選抜

JAAF TOYAMA 一般財団法人富山陸上競技協会

〒930-0887 富山市五福5区1942 アオイススポーツハウス内
TEL.076-442-1235 FAX.076-471-5595
<http://jaaf-toyama.net/>

富山陸上競技協会事務局は、2003年から12年間にわたりアオイススポーツハウスにおいて業務を行ってまいりましたが、今年9月から念願の富山県総合運動公園富山陸上競技場内に移転することとなりました。事務局の移転によって協会としては、大会および業務においてこれまで以上にスムーズな運営ができるものと思っております。また協会ホームページも4月1日にリニューアル、定款、役員名簿、大会要項など協会の事業に関するすべての情報を掲載し、登録会員の皆さんにいち早く利用していただいております。

また本競技場は2012年から指定管理者制度となり、本協会に対して大会運営並びに冬季練習会などで積極的に協体制をとっていただいていることで、その成果が今年の世界ジュニア選手権走高跳日本代表選手の中澤優選手（富山商業高校）を輩出することができたものと思っております。

2013年の競技場改修工事に伴い、オーバーレーンにしてからは、今年度の県内大会および地域大会で県新・高校新・中学新など好記録のレースが展開され、これまでにない観客への感動を与えております。

本協会としては、これからもさらなる飛躍を目指して、頑張りたいと願っております。

JAAF FUKUI 一般財団法人福井陸上競技協会

〒918-8585 福井市三十八社町33-66 フクビ化学工業株式会社内
TEL.0776-38-0360 FAX.0776-38-0361
<http://www.fukui-jaaf.com/>

福井陸上競技協会では2018年に開催される『福井しあわせ元気国体』に向け、鋭意準備をすすめております。新たな取り組みとしては、第2回福井県中学校地区対抗陸上競技選手権大会を開催します。この大会は、福井県を7つの地区に分け、各地区で代表選手を選抜し、各地区による団体総合を争う試合です。

昨年、第1回目を開催しようとしていたところ台風直撃のため、やむなく大会開催を断念しました。今年こそ、なんとしても開催し、大いに陸上競技を盛り上げていきたいと思っています。

この大会開催の真の目的は、各地区が総合優勝を目指し、独自に選手発掘、選手強化を実践していけるような組織力をつけることです。各地区が独自に選手発掘、選手強化を進めることができれば、福井県陸上競技界の競技レベルは年々成長していくことと思います。

また、この大会で活躍した中学生を約20名を選抜し、今年開催される「長崎がんばらんば国体見学ツアー」を行います。また、ジュニア普及部においては、小学生学年ごとに福井県選抜リレーチームを結成し、エコパトラックゲームズに参加したいと思います。福井国体成功に向け、強化部、競技部、ジュニア普及部などが独自に企画し、実践しています。

JAAF ISHIKAWA 一般財団法人石川陸上競技協会

〒923-1244 能美市菜丸町ワ50 物見山陸上競技場内2階
TEL.0761-51-3222 FAX.0761-51-3222
<http://gold.jaic.org/jaic/member/ishikawa/index.htm>

4月19日、20日に開催の日本陸上競技選手権50km競歩・全日本競歩輪島大会を皮切りに今年度がスタートし、新しく改修工事された県営陸上競技場（西部緑地公園）でトラックシーズンが始まり、5月の県高校総体・7月の県中学陸上競技大会等で好記録も出ており、8月に行われる全国大会にむけて本協会としても期待をしたいと思います。

本県では、2020年に開催される東京オリンピックに向けて県内から多くの選手を輩出できるよう「いしかわグローバルアスリート支援事業」がスタートし、中学生・高校生の強化発掘に積極的に取り組むこととなり、特に1964年の東京オリンピックに本県から競歩選手で出場した斎藤和夫さんを始め、6名の競歩選手がオリンピック・世界選手権に出場し、入賞した実績のある「競歩大国石川」の復活に向けて指導者の育成を含め、小・中・高校の更なる連携を高め、選手育成事業を展開していきます。そのためにも他県の強化事業の教えをいただきたいと思っておりますのでよろしくお願致します。また、今年本協会が80周年を迎えます。記念事業・式典とあわせて新たな思いでスタートをしたいと思っております。（文責：理事長 藤垣晴夫）

JAAF NAGANO 一般財団法人長野陸上競技協会

〒386-0151 上田市芳田1656-1 杉崎憲雄様方
TEL.0268-35-2132 FAX.0268-35-2132
<http://nagano-rk.com/>

長野市開催3年目となる第98回日本選手権混成競技・第30回日本ジュニア選手権混成競技を、5月31日、6月1日に行いました。

1位の右代啓祐選手（スズキ浜松AC）は、8308点で日本新記録を樹立、2位の中村明彦選手（スズキ浜松AC）も8035点と2人そろって8000点の大台を突破し、長野で歴史的瞬間を迎えることができました。主管する長野陸上競技協会としては、長野開催で達成された好記録に大会役員一同大変感激しました。

6月6日～8日まで福島で行われた日本選手権では、長野県関係では原翔太選手（200m）・川元奨選手（800m）・佐藤悠基選手（5000m、10000m）・嶺村鴻汰選手（走幅跳）・石川和義選手（三段跳）の5人の選手が1位になり、塚原直貴選手（100m／5位）・大迫傑選手（10000m／2位）・太田和彰選手（110mH／7位）・戸谷真理子選手（走高跳／5位）・宮坂楓選手（走幅跳／7位）・田中美沙選手（走幅跳／8位）の6人の選手が入賞しました。そして、第17回アジア競技大会日本代表選手に原選手（短距離）・川元選手（中距離）・佐藤選手（長距離）・大迫選手（長距離）の4人の選手が選ばれました。

また、7月5日・6日に開催した長野県中学校総合体育大会陸上競技大会において女子100mで、35年振りとなる長野県中学校新記録が出ました。

今までは長野県と言えば駅伝、長距離の活躍が目立ちましたが、本年度はトラックアンドフィールドで活躍しております。10月に開催される長崎国体においては、長野県選手団の活躍が期待されます。

事務局からのお知らせ

◆◆日本陸上競技連盟マラソンメディスンセミナー2014を開催します!◆◆

日本陸上競技連盟医事委員会では、安全なマラソン大会の運営に寄与することを目的に、さまざまな事態を想定したうえで、主催者側がどのような医療体制を構築すべきか、を中心としたマラソンメディスンセミナー2014を開催します。

日時：2014年9月15日(祝・月) 13:00~17:00(予定)

会場：東京都北区 味の素ナショナルトレーニングセンター

対象者：日本陸上競技連盟公認コースで開催されるマラソン大会の医事責任者と事務局

および、それ以外のマラソン大会、ロードレース大会の医事責任者と事務局

※詳細につきましては、本連盟ウェブサイト <http://www.jaaf.or.jp/medical/index.html> にて。

◆◆陸上競技指導教本を好評発売中です!◆◆

普及育成委員会、強化委員会を中心に制作してまいりました陸上競技指導教本(初級編、上級編)が昨年4月に大修館書店から出版され、既刊のキッズ指導者向けの教本と合わせて、3冊シリーズが揃いました。「陸上競技指導教本アンダー13 楽しいキッズの陸上競技(定価:本体1,800円+税)」、「陸上競技指導教本アンダー16・19 [初級編] 基礎から身につく陸上競技(定価:本体1,900円+税)」「陸上競技指導教本アンダー16・19 [上級編] レベルアップの陸上競技(定価:本体1,900円+税)」は好評発売中です。

日本陸上競技連盟が主催する指導者講習でもテキストとして使用していきます。是非ご購入いただいて、日頃の指導の参考にしてください。



陸連時報編集委員

◇編集委員

- 横川 浩(陸連会長)
- 三宅 勝次(陸連副会長)
- 友永 義治(陸連副会長)
- 尾縣 貢(陸連専務理事)
- 原田 康弘(陸連強化委員長)
- 風間 明(陸連事務局長)
- 高橋 克実(陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

- 森 泰夫
- ◇時報編集担当
- 繁田 進
 - 石塚 浩
 - 木越 清信
 - 宮田 宏
 - 本田香代子
 - 森谷 真咲

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
ウェブサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>